

次以職事內覽并院奏、攝政若不被參、以內記內覽之、

次職事返下

次大臣召內記仰云、令清書可進、

次內記進清書宣命、其間儀如先、以職事內覽院奏、

次大臣召大外記給宣命、乍入宮給之仰云、中務仁可傳、

次攝政以下相引被參、不可被渡、劍翼仍此間大刀契以下、自大內可被渡、緣事諸司、任院、例可供奉、大刀

契置內侍所邊、門立陣座、南庭置版位、立炬火屋、

攝政以下參入之後、勅授公卿、解劍、新帝着御畫御座、直衣、不、攝政着同御座邊圓座、

次攝政召藏人一薦藏人候地上、仰可罷登之由、即候寶子敷、

次攝政仰云、藏人仁可補下地拜舞、退歸候殿上、

次攝政又召藏人、初人自殿上參入、

次攝政被仰云、公卿牛車勅授昇殿如舊、頭藏人并所衆雜色非雜色出納瀧口等事、又禁色雜色雜袍事同被仰、

次藏人、牛車勅授禁色雜袍事仰大臣、

次大臣於弓場殿邊、召外記仰上、或於仗座、仰之、此間勅授公卿帶劍、

次攝政起座進弓場奏慶賀拜舞、

次大臣以下公卿、於弓場拜舞、攝政加此例、又拜舞、

次攝政以下着殿上、居、膳、三ヶ日、

次攝政歸參御前、

次藏人一薦於殿上口出納仰頭藏人并所衆雜色非雜色出納瀧口事、